



吉野材の提供体制強化 新たな顧客の獲得へ

吉野材の流通合理化を目指す「吉野製材工業協同組合」(吉野町丹治・中西利彦代表)は、新たなマーケティング拠点とした事業部「YOSHINO WING」を設立した。調達から製造、販売までワンストップで提供する体制を強化し、従来の流通構造からの脱却と、新たな顧客獲得に向けたPR活動を実施している。同事業部の櫻本昌幸室長に、吉野材の現状や、今後の展望などについて聞いた。

普及に向けた取り組み実施

吉野ウイングは、吉野製材工業協同組合の新たな事業部として2年ほど前に設立しました。吉野製材工業協同組合の青年部と、県の奈良の木ブランド課の人たちと一緒に、将来の吉野材の在り方、どういった改革をすれば流通をPRできるのかということに取り組みはじ

めたことが設立のきっかけになります。

専属にやっています。この
吉野ウイングに注文いたば

それまでずっと外来の古材が安かったんですがウッドショックで価格が上昇したことから、国産材に注目が集まり切り替えるという動きが出てきました。しかし奈良県の山の事情としてはほとんどが急傾斜のところに植林されているため、育

吉野材を知つてもらつた
め、ロハイベントを開催され
ていますよ。

一吉野材を使った家の建築としては新しい工法もありますか。

A wide-angle photograph showing a group of approximately 20-30 people gathered at a construction site in a park. In the center, a large wooden frame structure is being assembled, possibly a stage or a traditional building. Several wooden beams and logs are scattered on the ground in the foreground. The background is filled with dense green trees. On the far left, a vertical column of Japanese text reads "一吉野材を知つておひいきなさい" (Please appreciate the wood from Yoshino). The overall atmosphere is one of a community event or a public demonstration of traditional craftsmanship.

いただき、一棟分の
材を吉野から調達し
て出せるそういう取
り組み。

もう1つが、リノ
ベーション。リモー
トが増えてくると空
き家の活用法も変わ
ってくると思いま
す。リノベーション
というのは、構造材
がそのまま使えるこ
とから、うちが不得
意な部分でもあります。構造材がそのま
ま使えるものもある

G 横本昌幸室長に聞く

吉野材をワンストップで購入できるようになされたのですね。

「日本大禍でカット・ショットが起きましたが、現状は、昨年の2月あたりから全国からの木材が入ってこないという傾向が顕著になりました。8月、9月ぐら

先進した林業地にはついて
いけないなと思っています。
皆さん分かっていること
ではあります、皆伐をして
て少しでも植林をしていっ
ていただかない」と、今後が
んだん資源が枯渇してくる
のが目に見えています。

今まで購入する場所も方法も知らなかつた人にも周知しようとイベントを開催しています。

今月に実施するイベントでは、木工作家さんに集まつていただいて、家というのは建て方だけではなく家具やテーブル、椅子も必要です。イベントを通じて気に入つていただけたらここを起点としてセットアップで販売していただけるんじゃないかなと考えてい

—今後の活動の展開は。
まず1つは全国の色々な
木材を取り扱ってうっしゃ
る工務店さんに吉野材の自
さについて理解をしていた
だいた上で、こちらの方か
です。

め、地場の工務店さんもそれに押されるような形です。ですので何かうまく地場の工務店さんとタッグを組んで、奈良の木を県民によりPRできたらと思っています。